

原木・製品生産のアンケート結果等 (東北地区)

令和2年10月
林野庁

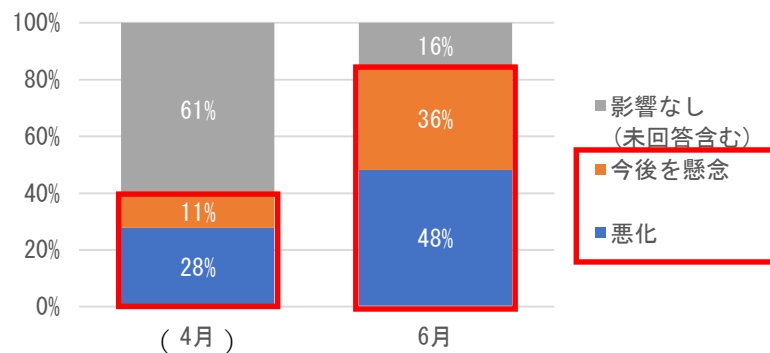
1 原木生産（全国）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数256）を実施したところ（4月の回答数は228）

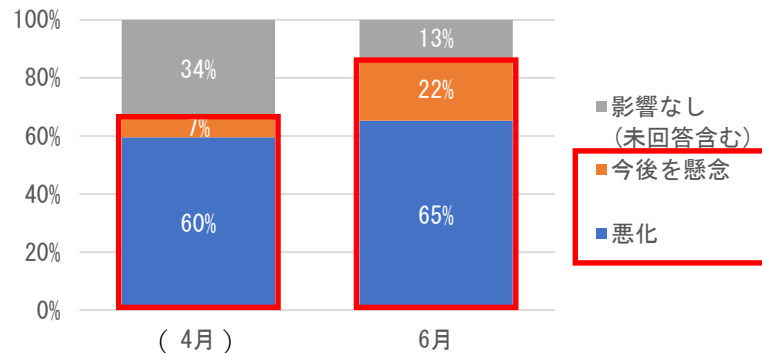
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約8割**であり、4月から4割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約9割**であり、4月から2割増加。
- ・ 8月の時点では需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くことを懸念。

○出荷量・販売価格状況

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等における原木の受入制限や原木価格の下落を受け、販売量は減少。
- ・ 一方、7月豪雨の影響により、九州地方では出材量が減少し原木価格が反発。
- ・ 燃料用材の需要は堅調。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くおそれ。
- ・ 豪雨の影響による原木価格の反発は一時的とみられる。

1 原木生産（全国）（つづき）

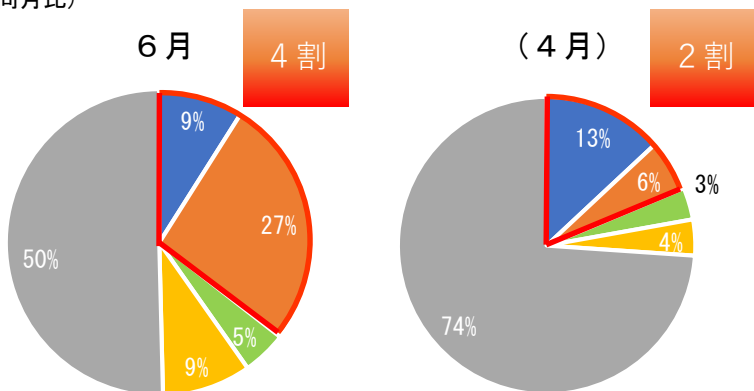
- ・生産状況について、減産していると回答した事業者が約4割であり（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・雇用確保のため素材生産の代替として、造林・保育へ移行（51%）、皆伐から間伐へ移行（38%）している。
- ・また7月以降、約3割の事業者が減産を実施予定と回答。

○生産状況、雇用

■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

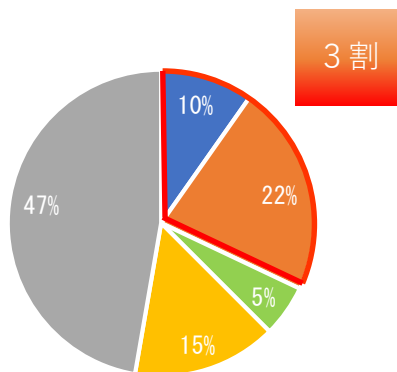
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

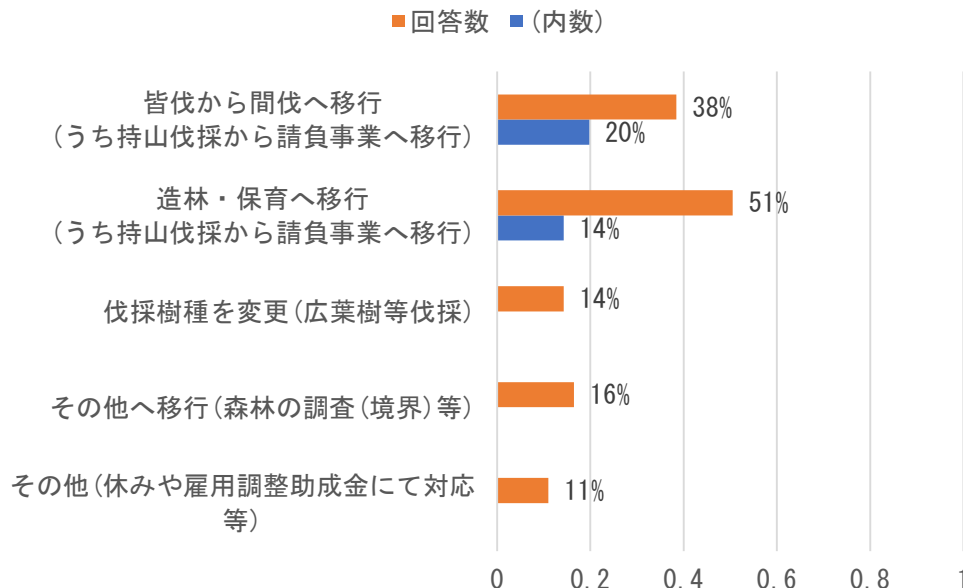
- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況

（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・販売状況の悪化や7月の長雨（豪雨）の影響に伴い、生産量は減少。
- ・生産に伴わない作業へ移行し雇用を確保している。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・経営状況の悪化が懸念される。

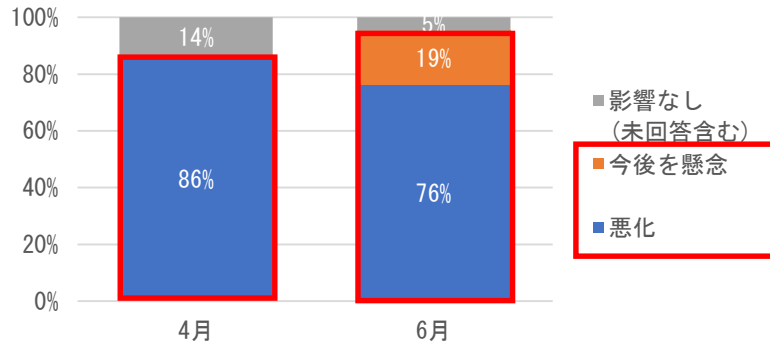
1 原木生産（東北地区）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数21）を実施したところ（4月の回答数は21）、

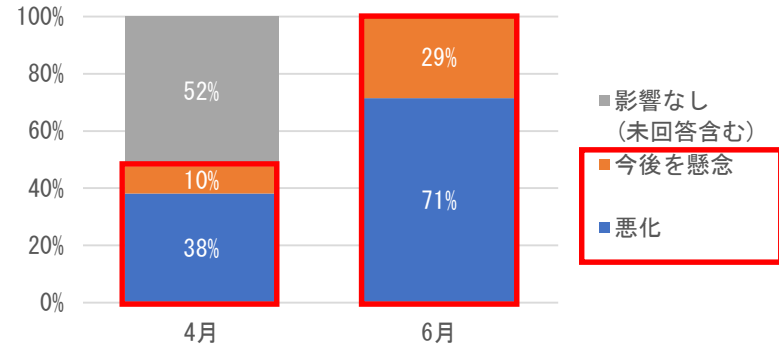
- ・ **出荷数量の動向**について、ほぼ全ての事業者が**悪化又は今後を懸念と回答**（4月から1割増加）。
- ・ **販売価格の動向**について、ほぼ全ての事業者が**悪化又は今後を懸念と回答**（4月から5割強増加）。
- ・ 製材工場等の受入制限・停止により**販売量が減少、原木価格も下落**しており、今後の先行きも不透明である。

○原木の出荷・販売状況、売上げの動向

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等の入荷制限により販売量は減少。原木価格も下落。
- ・ 合板用材の一部がチップ用材として利用される場合もみられる。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 工場の減産、原木価格の下落が続くおそれ。

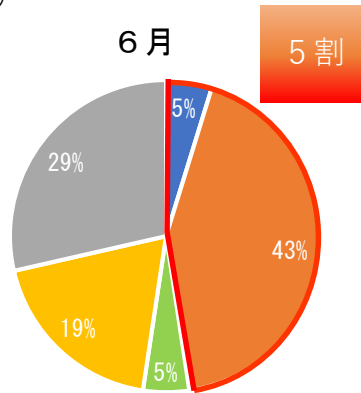
1 原木生産（東北地区）（つづき）

- ・ 原木生産について、減産していると回答した事業者が約5割であり（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ 雇用確保のため素材生産の代替として、皆伐から間伐へ移行（60%）、伐採樹種を変更（60%）している。
- ・ また7月以降、約6割の事業者が減産を実施予定と回答。
- ・ 販売状況の悪化に伴い、素材生産を伴わない作業へ移行。

○原木の生産状況、作業の移行状況

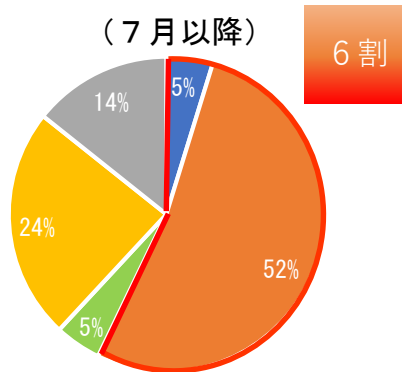
■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）

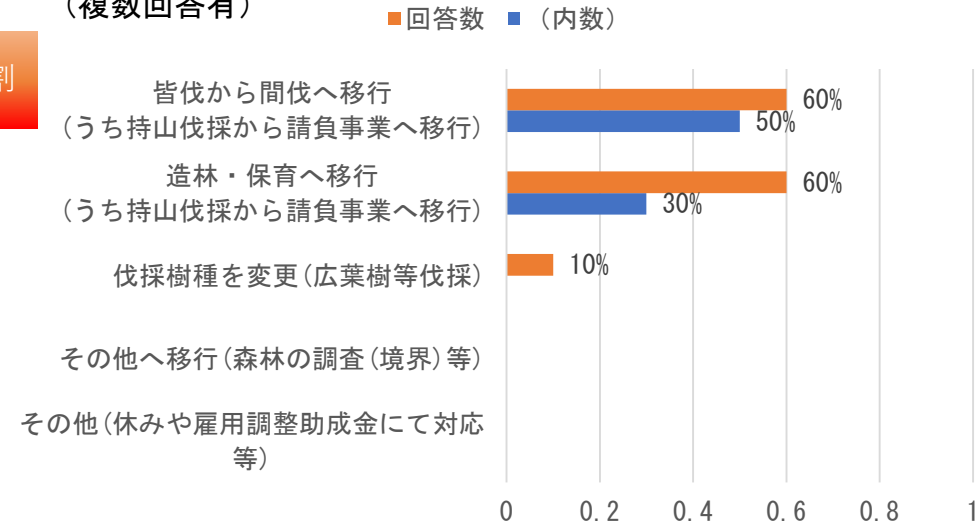


■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・ 販売状況の悪化に伴い、素材生産を伴わない作業へ移行している。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。経営状況へのさらなる影響を懸念。

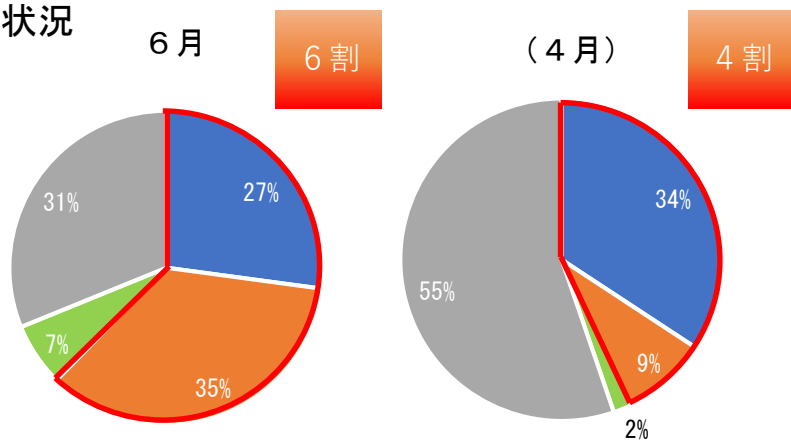
2 製材（全国）

全国の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数199）を実施（4月の回答数は219）。

- ・ 約6割の工場が製品の減産を実施しており（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ このため、約3割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。
- ・ 需要の先行き不透明な状況により、入荷制限は継続される見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報

【現状】

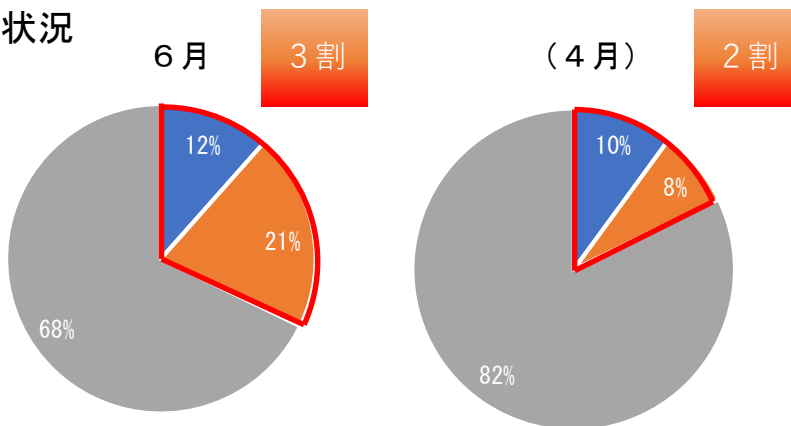
- ・ 製品生産・販売ともに全体的に減少傾向
- ・ 製品価格も下落傾向。
- ・ 特に梱包材・パレットやイベント等の仮設資材の需要が落ち込む。
- ・ ホームセンター向け製品の販売は増加。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 秋以降、多少需要が回復しても限定的で、現状の傾向が続くとみられる。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 減産に伴い一部で入荷制限を実施。
- ・ 供給側の生産調整や天候の影響による出材量の減少により、原木調達が困難となる地域もみられる。

【見通し】

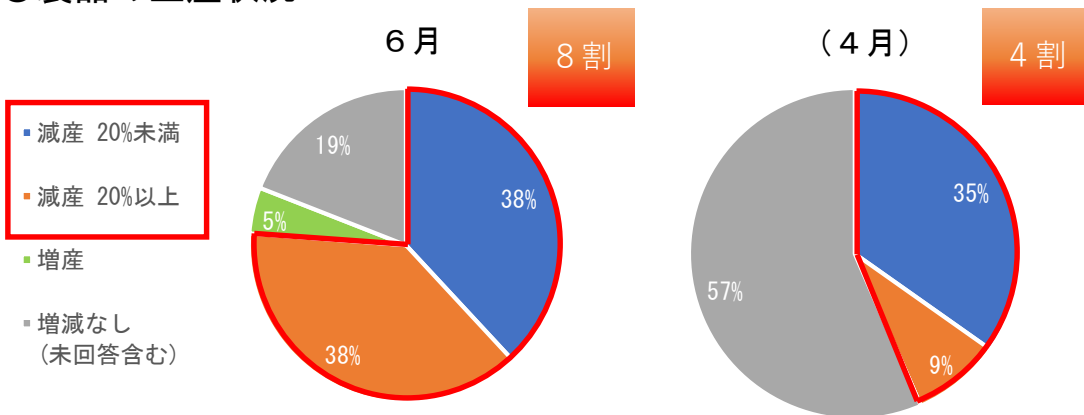
- ・ 先行きは不透明。
- ・ 販売状況によっては入荷制限を継続。

2 製材（東北地区）

東北地区の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数21）を実施（4月の回答数は23）。

- ・約8割の工場が減産していると回答しており（4月比4割増）、減産割合も「20%以上」増加している。
- ・このため、約4割の工場が原木の入荷制限を継続。
- ・製品の生産・販売が前年比1～3割程度減少。8月時点では需要の先行き不透明なため、入荷制限は続く見込み。

○製品の生産状況



■ 8月時点の情報

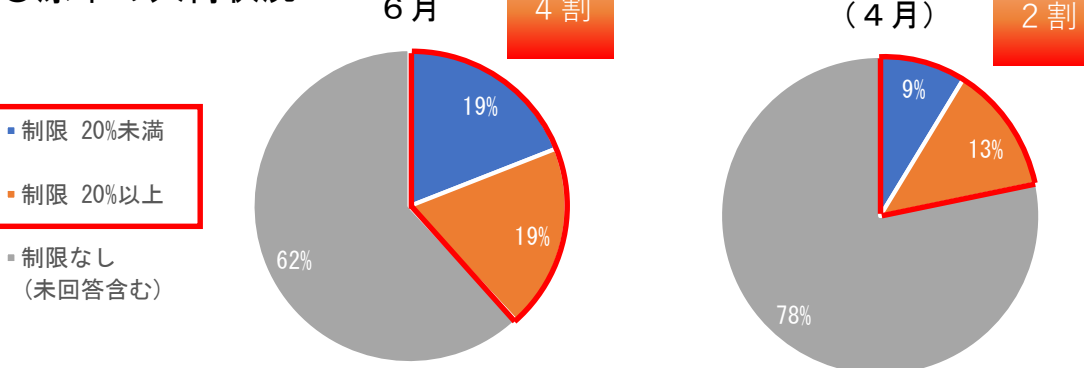
【現状】

- ・製品の生産・販売は前年比1～3割程度減少。
- ・製品価格が下落。

【見通し】

- ・10月以降は少し回復すると思うが先行きは不透明。

○原木の入荷状況



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・原木入荷は前年比1～2割減少。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・入荷制限は続く見込み。

3 合板（全国及び東北地区）

合板工場を対象に6月の状況について調査（回答数31）を実施（4月の回答数は27）。

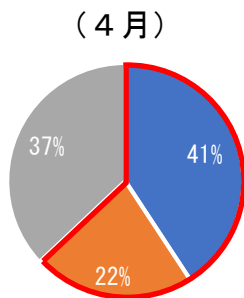
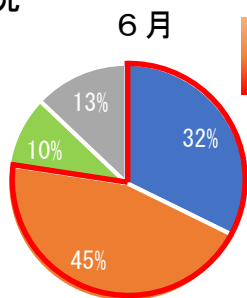
全国の状況として、

- ・合板の生産状況について、減産していると回答した事業者が約8割であり（4月比約2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・このため、約5割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。

東北地区においては、製品販売が前年比15～20%程度減少しているため、入荷制限を実施。今後も生産調整は続く見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

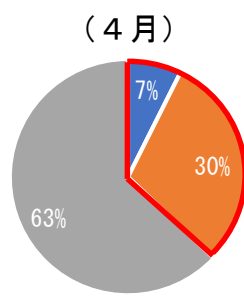
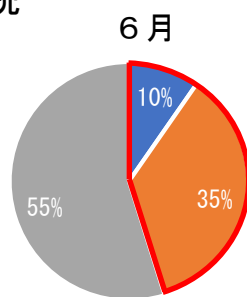
- ・製品は前年比1～3割減産。
- ・販売も前年比2割程度減少しており、価格も下落傾向。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・秋まで需要減退が続く見通しであり、当面は減産を継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・原木の受入制限を実施（前年比1～3割減）。
- ・一方、安定的に入荷を続けている工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・減産の継続に伴い、原木の受入制限を継続する見込み。

■ 8月時点の情報【東北地区】

【現状】

- ・在庫過剰により減産。販売は3月以降、前年比15～20%程度の減少。
- ・在庫が満杯となり受入制限を実施している。

【見通し】

- ・在庫を増やさないよう生産調整を継続。販売は9月以降さらに落ち込む見込み。
- ・生産量に見合った入荷を継続。

4 集成材（全国及び東北地区）

集成材工場を対象に6月の状況について調査（回答数64）を実施（4月の回答数は64）。

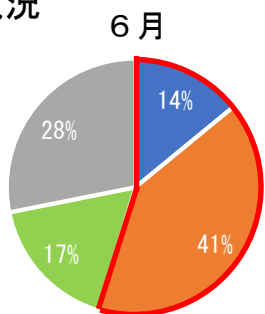
全国の状況としては、

- ・集成材の生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約6割あり**（4月比約3割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、**約2割**の事業者が**増産**していると回答。
- ・このため**約1割**の工場が**原木の入荷制限を継続**。

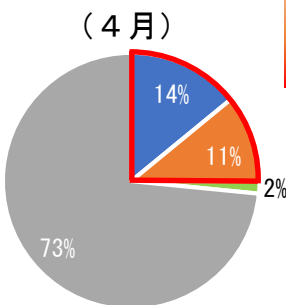
東北地区においては、**生産・販売が前年比2割減**。9月以降は見通し不透明だが、若干回復の見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



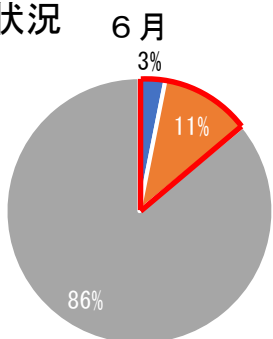
6割



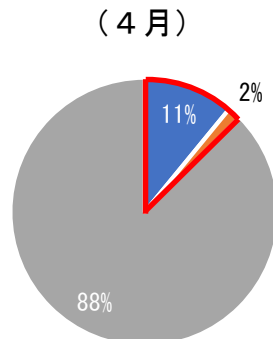
3割

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



1割



1割

■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製品は前年比2～3割減産。
- ・安価な輸入製品との競合により、製品価格が下落傾向。
- ・一方、非住宅物件向け（公共・民間）の構造用集成材の需要が増加しており、高い稼働率を維持している工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。受注増は期待できず、当用買いが続く見込み。
- ・一方、非住宅物件向けの需要増により、前年比3割増の受注を見込む工場もある。

■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・受注低迷のため入荷制限を実施。

【見通し】

- ・先行きは不透明。当用買いが続く見込み。

■ 8月時点の情報【東北地区】

【現状】

- ・5月下旬から受注が減少し始め、生産・販売量が前年比2割減。安価な競合輸入製品の影響により7月以降大幅値下げ。前年比4割の入荷制限を実施。

【見通し】

- ・9月以降見通し不透明も、若干回復の見込み。

5 チップ（全国及び東北地区）

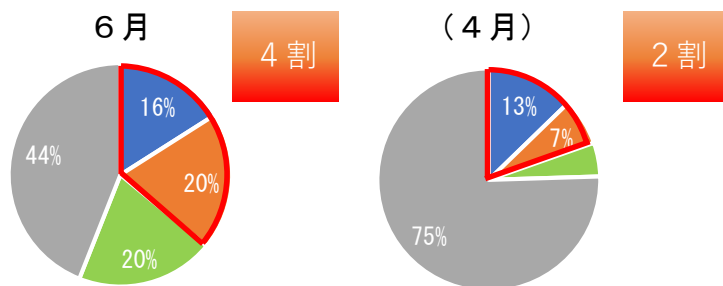
大手のチップ工場を対象に6月の状況について調査（回答数100）を実施（4月の回答数は102）。
 全国の状況としては、

- ・生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約4割**あり（4月比約2割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、2割の事業者が増産していると回答。
- ・**約1割**の工場が**原木の入荷制限を継続**（4月から微増）。

東北地区においては、**パルプ用チップは減産、燃料用チップは堅調**。事業者によっては、やや回復の見込み。

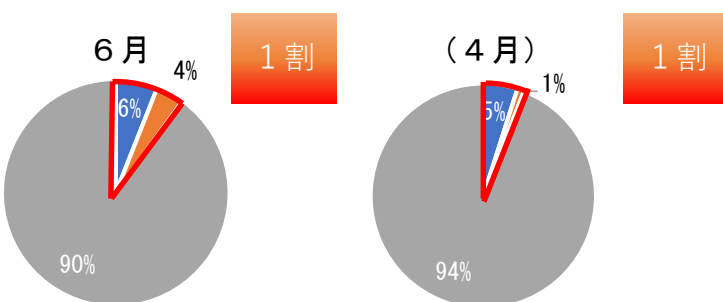
○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製紙需要の減退により、パルプ用チップは針葉樹、広葉樹とも減産。
- ・燃料用チップの生産・販売は堅調。

【見通し】

- ・製紙は今後も厳しい減産が続く見込み。
- ・燃料用需要は継続。

■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・パルプ用原木の受入を制限している工場もある。
- ・燃料用原木は地域によってややひっ迫。
- ・合板用原木の一部がチップ用に利用されることもみられる。

【見通し】

- ・パルプ用原木は今後も受入制限を継続する見込み。
- ・木質バイオマス発電施設の増加により燃料用原木は地域によって、調達が一層厳しくなる可能性。

■ 8月時点の情報【東北地区】

【現状】

- ・パルプ用チップは生産・販売が減少。燃料用は堅調。在庫が増加傾向で入荷抑制。
- ・燃料用チップの入荷は4月以降急激に増加したが6月に入り減少傾向。合板材の一部がチップに流れている。

【見通し】

- ・パルプ用チップは下期はやや回復見込む。燃料用への供給が増える見込み。
- ・先行きは不透明のため、消極的な調達が続く見込み。